

vol.
61
2024
autumn



Osaka Kyoiku
University
Public Information
Magazine

大阪教育大学広報誌

Ten You

天遊

Students Now!

卒業生CATCH!

ラボ訪問

大教生の推し活!

附属学校園ウォッチ

今号の表紙学生

TOPICS



特集
1

教育協働学科を 再編!

特集
2

創基150周年記念事業



もっとつながる

大阪教育大学へ



教育協働学科を再編!

現代の学校現場を取り巻く課題は複雑化・多様化しており、学校や教員だけではなく、さまざまな教育に関わる領域の発展が必要とされています。そこで、本学では学校教育と社会を「つなぐ」ことができる人材を養成するために令和7年4月に教育協働学科の専攻・コースを再編します!



学校現場と教育に関わるさまざまな職業とを「つなぐ」人材を育てる

教育協働学科の役割

チーム学校(*)を含む学校教育や地域教育活動を支える各分野の専門性を有しつつ、学校、家庭、地域、社会と連携・協働することで、学校現場や社会で発生するさまざまな教育課題の解決を図ることができる人材を育成すること!

*チーム学校…教員以外の専門スタッフの参画、事務体制の強化、業務環境の改善を通じて教育の質の向上を図る新しい学校運営の在り方

時代の変化

感染症の流行によるオンライン授業の整備や国際情勢の不安定化、少子化、AIの著しい発展など、社会が急速に変化し、学校現場を取り巻く環境も目まぐるしく変動しています。

再編の目的

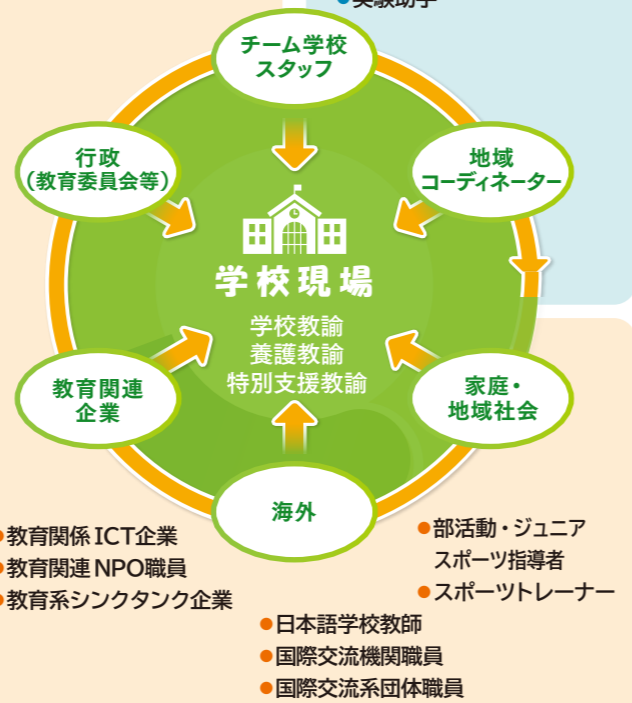
これらの変化に伴う学校教育の新たな課題を解決するためには、これまでのチーム学校による支援(教育支援分野)に加え、教育現場の課題を深く理解した企業やNPO法人、行政等との「つながり(連携・協働)」をより一層推進する人材が必要です。本学の教育協働学科は、教員養成系大学の中でも協働人材の育成を行う珍しい学科として、学校教育と社会を「つなぐ」ことができ、変革を起こすことができる人材育成をめざします!

国内外の学校を取り巻くさまざまな教育関連分野

- 教育行政職員
- 大学事務職員
- スポーツ/芸術文化振興系団体職員

教育支援分野

- ICT支援員・部活動指導員
- 地域連携担当員
- スクールカウンセラー
- 事務職員
- 実験助手



[令和7年度再編の概要]

学科	専攻	コース	募集人員	取得可能な資格・免許状	主な進路
教育協働学科	教育イノベーション専攻	数理・知能情報コース	55	●中学校教諭一種(数学) ●高等学校教諭一種(数学) ●高等学校教諭一種(情報)★	教育委員会など教育行政職員(情報系技術職員)、企業(情報処理・情報通信系、学習用ソフトウェア・デジタル教材開発、教育現場のICT化)、学校事務職員・大学事務職員、教育サービス企業、中学校教諭、高等学校教諭 など
		環境安全科学コース	75	●中学校教諭一種(理科) ●高等学校教諭一種(理科)	教育委員会など教育行政職員、教育関連NPO職員、企業(教科書、学習用ソフトウェア・デジタル教材開発)、教育系シンクタンク企業、学校事務職員・大学事務職員、教育サービス企業、中学校教諭、高等学校教諭 など
	教育コミュニティ支援専攻	心理科学コース	40	※公認心理師	企業・公務員・団体職員(心理・人材育成・社会福祉系)、大学院(公認心理師資格取得を含む)、教育サービス企業 など
		スポーツ健康コース	50	●中学校教諭一種(保健体育) ●高等学校教諭一種(保健体育)	企業(健康・スポーツ系)、スポーツトレーナー、公務員・団体職員(スポーツ振興系)、部活動・ジュニアスポーツ指導者、教育サービス企業、中学校教諭、高等学校教諭 など
グローバル教育専攻	芸術表現コース	音楽	40	●中学校教諭一種(音楽) ●高等学校教諭一種(音楽)	企業(デザイン・広告・映像・音楽制作・芸術教材開発等)、公務員・団体職員(芸術文化振興系、劇場、美術館等)、部活動・音楽・美術教室の指導者、教育サービス企業、中学校教諭、高等学校教諭 など
		美術		●中学校教諭一種(美術) ●高等学校教諭一種(美術)	
	日本語教育コース	55	◆登録日本語教員 ●中学校教諭一種(国語) ●高等学校教諭一種(国語)	日本語学校教師、公務員・団体職員(国際交流系)、通訳・翻訳業、教育サービス企業、中学校教諭、高等学校教諭 など	
		国際協働英語コース	35	●中学校教諭一種(英語) ●高等学校教諭一種(英語)	国際交流機関職員、公務員・団体職員(国際交流系)、英会話講師、通訳・翻訳業、教育サービス企業、中学校教諭、高等学校教諭 など
合計			350		

- は卒業要件以外にコースに応じたそれぞれの免許状に必要な科目の単位を併せて修得することによって取得が可能。
- ★高等学校教諭一種(情報)免許状については、文部科学省に教職課程を申請中であり、審査の結果、予定している教職課程の開設時期等が変更となる可能性があります。

- ◆所定の単位を修得し、日本語教員試験(応用試験)に合格することにより取得が可能。ただし、登録日本語教員養成機関及び登録実践研修機関として文部科学省に申請予定であり、審査の結果、予定している開設時期等が変更となる可能性があります。
- ※ 所定の単位を修得し、卒業後、大学院において所定の単位を修めるか、実務経験を積むことで取得が可能。

修得する力

教育課題を解決するための能力を修得

専攻・コースで設定したテーマに関わる課題解決型学習(PBL)の科目(課題探求プログラム科目)や、キャリア形成を支援する科目(協働共通科目)を履修することにより、教育課題を解決できる能力を身につけます。

専攻・コースの専門性を修得

専攻共通科目・専攻分野科目を履修することにより、所属する専攻・コースの分野に係る専門性を身につけます。

学校・家庭・地域・企業等と連携・協働し、多様な教育課題解決のための新たな方法を創造できる人材を養成します!

Voice



教育協働学科長 町頭 義朗 教授

さまざまな課題が山積みの学校教育における課題を解決するためには、学校の教員の力だけでは足りません。これまで教育協働学科では、「チーム学校による支援」というキーワードの下で教育を行って参りました。令和7年度の再編ではこれに加え、教育関連企業を始めとするさまざまな企業、NPO法人、行政などから学校教育を支援できる人材を育てることを目標とした専攻・コースを用意しています。教育協働学科の卒業生が、子どもたちの個別最適な学びを実現するための一助となってくれることを願っています。

再編の詳細はこちら



大阪教育大学は 創基150周年を迎えました!

150th ANNIVERSARY

大阪教育大学の沿革

大阪教育大学は、1874（明治7）年5月に設置された「教員伝習所」をその起源とし、2024年に創基150周年（開学75周年）を迎えました。歴史と伝統を有する本学は、皆様からの絶え間ないご支援によって、とりわけ教育界における有為な人材を育成してきました。そんな本学の150周年までの道のりと記念事業を紹介します！

1874（明治7）年5月 教員伝習所

1875（明治8）年8月 大阪府師範学校

1886（明治19）年9月 大阪府尋常師範学校

1898（明治31）年4月 大阪府師範学校

1908（明治41）年4月 大阪府天王寺師範学校

1898（明治33）年4月 大阪府女子師範学校

1908（明治41）年4月 大阪府池田師範学校

1943（昭和18）年4月 大阪第一師範学校

1943（昭和18）年4月 大阪第二師範学校

1949（昭和24）年6月
大阪学芸大学

1967（昭和42）年6月
大阪教育大学

2004（平成16）年4月
国立大学法人大阪教育大学

事業1 記念ロゴマーク

在学生、卒業生、教職員を対象に、記念ロゴマークの募集を行いました。55件の応募の中から厳正な審査により、下記の作品が最優秀賞に選ばれました。



最優秀賞を受賞した 林 梨奈さん
初等教育教員養成課程 小学校教育専攻（2024年卒）

事業2 記念うちわ

記念事業を盛り上げるために、記念ロゴマークを使用したうちわを作成しました。A棟1階や学生会館2階に設置している他、各種イベントで配布しています。



事業4 横断幕

創基150周年をより広く知ってもらえるよう記念うちわのデザインをもとに、横断幕を作成しました。柏原キャンパスのバス停（大阪教育大前駅）前と天王寺キャンパスの外柵に掲示しています。



柏原キャンパス



天王寺キャンパス

事業5 記念式典

記念事業のメインイベントとして記念式典を開催します。本学関係者、退職した教職員、卒業生、関係省庁・企業の方など約300人を招く予定です。

日時：2024年10月27日（日） 場所：シエラトン都ホテル大阪

内容：記念式典
記念講演会



NANA
NISHIKAWA

音楽ができる人の 活躍する場を創出することで、 音楽の価値を高めたい

教育協働学科 芸術表現専攻
音楽表現コース 4回生

西川 菜々 さん
(四天王寺高等学校卒)

「私、芸音っていう組織と芸音の学生たちが本当に大好きなんです」

西川菜々さんが目を輝かせて語る「芸音」とは、芸術表現専攻音楽表現コースの学生が自分たちの所属を呼ぶときの略称です。どんなところが好きかとたずねると、「年に何十回も演奏できる機会があり、その運営も学生主体で取り組ませてくれます。周りの学生もみんな明るく協調性があって、いとおしくてたまらないです」と、芸音愛がとめどなくあふれます。

同じく音楽を学んでいた母の影響で、「物心がつく頃にはバイオリンを持っていました」という西川さん。その母は、将来像のモデルにもなっています。「母は音楽大学を出ましたが、音楽の道には進まずに一般企業に勤めています。育児をしながらも、全力で仕事に取り組む姿がとてもカッコよく、将来の選択肢は広いほうが良いと考えたため、高校からは勉強も頑張りました」

進学した高校では医学系をめざす生徒が多く、西川さんも本学とは別の大学の薬学部に進学。しかし、「周囲の勢いに乗って薬学部に入ったものの、冷静になったら自分にはちょっと合わないかもと感じ始めました」。そんなとき、結婚式やイベントで演奏するアルバイトをしたり、趣味でオーケストラに入ったりと、音楽に関わる活動を始めたことが転機になります。「これまでは演奏技術を磨くことで、コンクールに入賞することや、周囲の人に評価してもらうことに終始していました。しかし、音楽で報酬がもらえたり、目の前の人に喜んでもらえたりした経験から、音楽というものは広く社会に価値を提供し

うるものだと実感しました」。そこで薬学部を中退し、音楽を学べる大学に入り直すことを決断。音楽の専門性を高められるだけでなく、多様な分野を幅広く学ぶことから本学を選びました。

音楽表現コースの学生は、「大阪教育大学シンフォニーオーケストラ」として数多くの演奏会を行っています。3回生のときに約100人いるオーケストラの代表を務めた西川さんは、演奏と同じくらい運営も楽しんでいました。「ホールとの打ち合わせ、演奏会の進行の段取り、エキストラの方との連絡など、多くを学生の自治で運営しています。たくさんの学生のスケジュールを管理したりと大変なことも多いですが、こんな経験ができるのは他にないと思っています」

さらに音楽表現コースでは、本格的なクラシックコンサート以外に、学校への出張鑑賞会や地域住民が気軽に鑑賞できるコンサートなども数多く行っています。多様な人に向けて演奏するなかで、演奏に向き合う意識も変わりました。「幼少期から、ある種閉ざされたクラシックの世界に身を置いていたので、その世界での音楽の

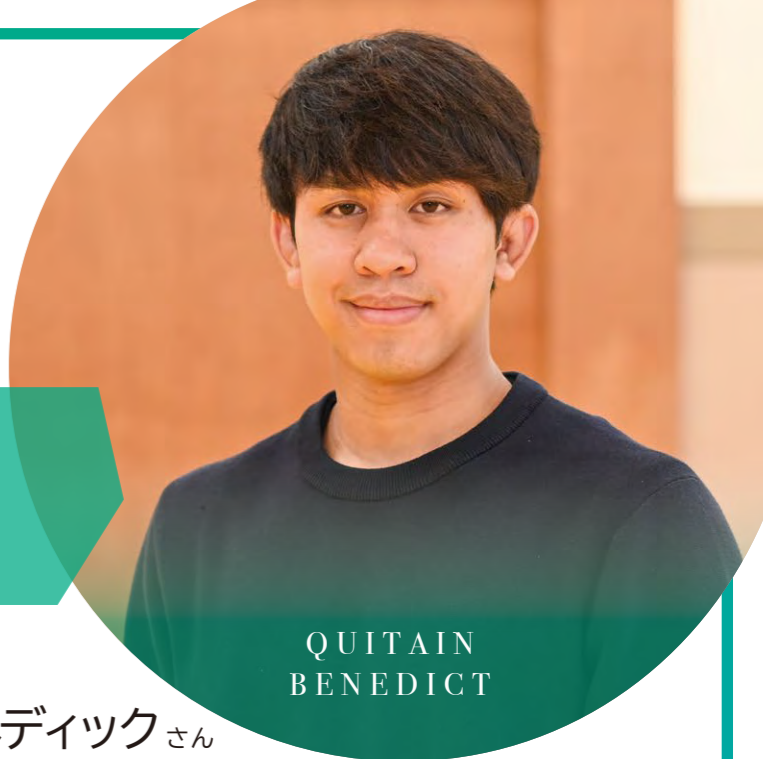
届け方の形式に捕らわれていました。しかし、芸音での活動を通して、そもそも音楽というのは目の前の人に楽しんでもらうためのものなんだと気づかされました」

こうした経験を通して、将来の夢も見えてきました。「音楽大学を出て音楽だけで生計を立てられる人は本当にわずかです。音楽の専門的教育を受けた人は、日本においてクラシックに関心のある層は薄いものにも関わらず、演奏会という限られた機会ですら音楽を提供できていません。だから、音楽ができる人の活躍できる場を自ら事業として創出することで、音楽の価値を高めたいと思っています。そのためにまず、自ら挑戦できる環境が整っている企業に就職する予定です」と意気込みます。

幼少期から培ってきた音楽の技術と芸音での多様な経験を生かして、これからの音楽業界を変えていく姿が目に見えかけます。



これまでと これからの 柔道人生



QUITAIN
BENEDICT

教育協働学科
スポーツ科学専攻 2回生

キタイン ベネディック さん
(熊本県立済々黌高等学校卒)

キタインベネディックさんは熊本生まれ熊本育ちで、小さい頃から柔道に打ち込んでいます。令和5年には、アジアの国際大会で2位に入賞するなどの活躍により、学術・課外活動・社会活動等において、特に顕著な業績・成果・貢献等が認められる学生を表彰する「学長特別表彰」を受賞しました。

今は柔道で活躍しているキタインさんですが、柔道を始める前に別のスポーツもしていたそうです。「柔道は小学校3年生から始めたのですが、それよりも前からサッカーのクラブチームに所属していました。しかし、サッカーの練習が週に1回しかなく物足りなかったため、家の近くにあった柔道の道場にも通い始めました。しばらくは両方に通っていましたが、小学校5年生のときに学業との兼ね

合いを考えて柔道一本に絞ることに決めました」。中学校に進学後も道場に通い続けて、新人戦で優勝するなど頭角を現し始めます。

順調な柔道人生に思えますが、高校時代はなかなか結果を残すことができなかったと悔しい表情で振り返ります。「県立の進学校に入学したのですが、そこには柔道部がありませんでした。それでも柔道は続けたかったので、中学校のときに通っていた道場と近くの高校に出稽古に行かせてもらったりして、一人で活動していました。ですが、強豪校と比べると練習量がどうしても少なくなるのでなかなか勝てず苦しかったです。最後の大会では2位になったのですが、優勝できなかったことが心残りでも大学でも柔道を続けようと思いました」

柔道もできて学業にも取り組める環境を求めて本学に進学したキタインさんは、柔道部で出会った仲間との日々が充実していると笑顔で話します。「大教の柔道部は横のつながりも縦のつながりもとても良いと感じています。普段は気さくなのですが、いざ練習になったらそこは切り替わって真剣に柔道に向き合っている雰囲気があります」。また、部活動に所属したことで団体戦に出場できるようになり、団体戦ならではの魅力にも気づくことができました。「高校時代までは一人で柔道をしていたので、団体戦は新鮮で緊張感がありました。誰かが弱気な試合をしようと、自分のためにはもちろんのこと、周りのために戦い抜くという柔道の新たな魅力を知ることができました」。今後の目標について聞くと、「国内の学生大会で結果を残すことを第一にしています。関西のレベルは高いですが、日々仲間と練習に取り組むことで目標に一歩ずつ近づきます」と意気込みます。

卒業後の進路については、「できる限り現役を続けて、フィリピンの代表として世界選手権に出場したいです。また、柔道の指導者や教員をしてみたいですし、海外でいろいろな人と関わる経験もしたいです」と話します。一人になっても活動を続けてきた胆力と、仲間と共に切磋琢磨してきた経験をもつキタインさんの今後の活躍が楽しみです。



卒業生 CATCH!



自分の歌を
届けるために
新たな挑戦を

シンガーソングライター

たばた みわ
田畑 実和

教養学科 芸術専攻 音楽コース 2018年卒

幼い頃から音楽に触れてきた

シンガーソングライターとして活躍する田畑実和さんは、小さい頃から音楽に触れてきて、物心つく前からディズニー音楽を聴いて歌っていました。そこから両親の影響もあり、音楽に関係するさまざまな習い事を始めます。「3歳からピアノを始めて、劇団四季も好きだったので歌と演技とダンスも習いました。大学のサークルではドラムやギターボーカルにも挑戦しました」。大学卒業後は一般企業に就職しましたが、「音楽活動も並行して続けていて、やっぱり音楽の道に行こうと決めました。そこからオーディションを受けてグランプリを受賞したことをきっかけに、シンガーソングライターとしてデビューしました」と語ります。



「うたりボ」としての活動

田畑さんはシンガーソングライターとして活躍する傍ら、2021年にプロ野球球団であるオリックス・バファローズの三代目サポーターに就任して、歌えるリポーター「うたりボ」としても活動しています。「オリックスの主催試合では、試合前から球場のアナウンスや自身のオリジナル曲の歌唱、試合のインニング間にはギターを使ったリポート、また選手へのインタビューもしています」。当初は純粋なリポーターとしての募集でしたが、田畑さんがオーディションでギターができたと言ったことをきっかけに「うたりボ」という名称が誕生しました。「誰もやったことがないので、正解が分からず不安になるときもありますが、歌とリポートを通して近い距離からファンの方に球団の魅力を届けられるように試行錯誤しています」

大学時代に得た仲間

大学では音楽に真剣に向き合っている人たちと出会って刺激的だったと振り返ります。「授業を受ける中で、みんな音楽のプロフェッショナルになるんだらうなって感じながら過ごしてい

ました」。大学時代の友だちとは卒業後も連絡を取り合っており、大学での出会いがかけがえないものだと感じた出来事があると語ります。「大学で一緒に授業を受けていた友だちが、私が音楽活動をしているのを知ってくれていて、私のために曲を作ってくれたんです。それをアレンジしたものを、プレデビューシングルとしてCDで出せたことがとても嬉しかったです」と笑顔を見せます。

音楽を通して恩返しを

これからの活動について聞くと「自分の歌をより多くの人に届けることができるように、日々の仕事を一つひとつ丁寧に頑張りたいです」と意気込みます。「今こうしてシンガーソングライターをやっている、たくさんの方がライブに来てくれたり、野球の試合前に京セラドームで自分の曲を歌ったりとか、本当に貴重な経験ができて感謝しています。この気持ちを胸に、たくさんの人へ音楽を届けることで、これまで関わってきた人たちに恩返しをしたいです」

LAB

ラボ訪問

一人ひとりの子どもに
適した支援を



総合教育系
(教育心理学部門)

高橋 味央 特任講師
MIO TAKAHASHI

Q 現在の研究内容は？

A 主なテーマは「教育をめぐる排除と包摂」と「教育と福祉の協働」です。学校教育というのは、すべての子どもが等しく学べる場としてはすごく魅力的ですが、一方で貧困状態にいたり虐待を受けていたりするなど、社会的に不利な立場にある子どもたちは、学校生活や教育システムから早期に離脱してしまう傾向にあるということが指摘されています。そこで、排除を防ぐ包摂的な教育とはどのようなものなのか、そのために教育と福祉がどのように協働していけばよいかについて、主としてフィールドワークの方法を用いて研究をしています。

Q スクールソーシャルワーカーも されているんですか？

A 修士課程を修了してから始めて、現在も続けています。スクールソーシャルワーカーという仕事は、学校や家庭の中で困り感を抱えている子どもに対して、学校の先生や地域の方々や協働して何ができるのかを一緒に考えていく専門職です。学校の先生は学級の中ですべての子どもに等しく接することが教育の適切な在り方だと感じている人が多く、それは教師文化の特徴の一つだといわれていますが、ソーシャルワーカーは個別化という価値・理念のもと、一人ひとりの背景や思いを大切に、その子に応じた支援を行うというところに専門性があります。その点で先生方と考え方や方針に相違が生まれることもありますが、子どもの最善の利益を図るためにどうすればよいのか、多様な視点からより良い支援を検討していくというそのプロセスに魅力を感じています。

Q 大阪教育大学で研究者に なった経緯は？

A ソーシャルワークというのは実践の科学であると思っています。目の前に支援の対象者がいるという特徴を持つ学問なので、研究で得た知見を実践に生かす必要があり、それと同時に実践の中から学ぶということも意識してきました。そんな中で、もう少し研究を深めたい、次の世代のソーシャルワーカーを育てたいという思いが強まって研究者の道を選びました。大阪教育大学の

教育協働学科は、さまざまな分野が融合してできている学際的な学科だと思っています。社会福祉学を学んでソーシャルワーカーになり、その後心理学を経由して教育社会学を学ぶという、異分野を渡り歩いてきた自分の経験が生かせると思い、現在大阪教育大学で研究しています。



Q 本学の学生の印象は？

A 真面目で基本的に学ぶことが好きな学生が多いなと感じます。私が伝えたことに対して、自分の経験と照らし合わせ、何かひっかけを持って考えてくれることが多いです。さらに、「違う場所ではこういう話を聞いたが、今日聞いた話とはどのようにリンクするのか」と、一つの学びから発展的に物事を捉えようとする学生が多いことが印象的です。

Q 先生自身はどのような 学生でしたか？

A 社会福祉学やソーシャルワークという学問がなんとなく面白いとは思っていましたが、正直なところ、学部1、2年生のときはアルバイトに熱中していました。しかし3年生になって「トラウマ支援をソーシャルワークの視点から考える」

というゼミに所属してから、学問の面白さに目覚めました。ゼミの先生と出会ったことで学ぶ楽しさを知り、自分がめざしていた対人援助の形がここにあるなとすごく感じたので、そこからは積極的に学ぶ学生に変わっていきました。学生にも、大学で自分の興味関心を学術的に深めていく過程を大切に、これまでとは少し違う学ぶ楽しさを実感してほしいと思っています。

Q ゼミの活動は？

A 貧困や虐待、いじめや不登校など、子どもを取り巻く社会課題の現状とメカニズムについて、社会福祉学や教育社会学の視点から学びを深めています。文献を講読して理論的・学術的な知見を得るとともに、地域組織や学校・教育委員会、児童相談所などのフィールドワークとおして体験的に学び、理論と実践を往還しながら、子どもに対するよりよい支援と教育のあり方について検討しています。



みんなの推しは？ 大教生の推し活！

- ① あなたは何推し？ ② どんな推し活してる？ ③ 一言！

アイドル★推し



- ① アイドル推し
② 3カ月に1回ほどのペースでライブに行っています。ライブでは缶バッジ、ペンライトなどのグッズを購入して楽しんでいます。また、対面で話せるイベントに参加したり、推しメンのラジオを聞いたりもしています。表紙を飾っている女性誌や芸能誌も購入します！
③ 井上さん「結婚してください！推し活は部活を頑張る糧であり、人生です！」木村さん「永遠に応援しています！推し活は生活の大部分、生きる糧です！！」

教育協働学科 教育心理学専攻 2回生
井上 浩孝さん、木村 圭輔さん

COSME 美容★推し



- ① 美容推し
② Instagramや好きなコスメブランドの公式ページを見て情報収集をしています。そして、集めた情報をもとにいろんなことを試しています。
③ 自分を好きに表現して生きてください！

教育協働学科 理数情報専攻
自然科学コース 1回生
新木 仁子さん



学校教育教員養成課程
小中教育専攻
数学教育コース 2回生
地主 恭悟さん

野球★推し

- ① 野球推し
② 球場へ観戦に行ったり、テレビやラジオで試合を見たり聴いたりしています。
③ 選手が頑張っている姿から、いつも大きなエネルギーをもらっています。推しのチームや推しの選手を見つけるのも楽しいです。



電車★推し

- ① 電車推し
② 珍しい電車の写真を撮ったり乗ったりしています。珍しさは車両番号や外見で判断しています。また、音鉄もしていて電車の走行音を録音しています。あとは、不定期で電車旅をしています。
③ 自分が知らない世界には興味が湧かなかったり、趣味にしづらかったりするかもしれませんが、ちょっとしたきっかけを持つことで電車の世界に入り込むことができるので、電車通学の人が多い大教生には特におすすめしたいです。



教育協働学科 理数情報専攻
自然科学コース 1回生
里山 健太さん

大阪教育大学附属学校園 WATCH

附属特別支援学校でSPS（セーフティプロモーションスクール）認証式を挙行

附属特別支援学校が国立大学附属特別支援学校として初のセーフティプロモーションスクール(SPS: Safety Promotion School) (*)に認証され、3月21日(木)に同校にて認証式を実施しました。
認証式では、日本SPS協議会の藤田大輔理事長(本学学校安全推進センター長)と附属特別支援学校の西山健校長による調印式が行われた後、代表生徒へ認証記念の盾が贈られました。当日は、文部科学省、日本SPS協議会、平野区役所、平野消防署、平野警察署から来賓を迎え、附属特別支援学校の全校児童生徒や教職員、保護者、本学附属学校統括機構、本学特別支援教育部門及び本学附属学校園等の教職員らが参加しました。
来賓からは「保護者や地域の関係者も参加されていて、とてもアット

ホームな感じがするすばらしい認証式でした」「認証式での子どもたちの表情がすごく良かったことが、とても印象に残りました」など祝福の言葉とともに、安全で安心な学校づくりを今後も継続していくことへの期待と励ましの言葉が寄せられました。



西山校長は「特別支援学校という特性を生かした独自の実践・研究を着実に積み重ね、その取組を地域へと広げ、次世代へとつなげていくことを本校の使命としたいです」と述べ、岩崎副校長は「平野地区にある附属学校園では本校が初めての認証となるので、本校だけでなく平野地区全体として学校安全について連携を図りながら進めていきたいです」と抱負を述べました。

*セーフティプロモーションスクール…平成24年5月に閣議決定された教育振興基本計画に示された「自助・共助・公助」の理念のもと、わが国独自の学校安全の考え方を基盤とする包括的な安全推進に取り組む学校を対象として新たに国の支援を受けて創設された認証制度



「学校安全の日」附属池田小学校行事「祈りと誓いの集い」を実施

平成13年6月8日、大阪教育大学附属池田小学校に刃物を持った男が侵入し、8名の児童の命が奪われ、13名の児童と2名の教員が負傷しました。事件から23年を迎えた6月8日(土)、同校で追悼式典「祈りと誓いの集い」があり、児童、保護者、教職員ら約770名が参加しました。

本事業は、事件を風化させず、その教訓と学校安全の思いをつなぎ、広く社会に向けて発信していくため、当時を振り返り、子どもたちにとって安心で安全な学校づくりを誓うものです。

「集い」に先立ち、奈良真行副校長は、人の命の大切さについて考えてほしいと全校児童に対して語りました。続いて、全学年で「安全科」の授業が行われ、6年生の授業では「安全を発信するということ」をテーマに、学校安全に対する意識を広げていくために自分たちができることについて話し合いました。

「集い」では、午前10時12分に犠牲になった8名の名が刻まれた「祈りと誓いの塔」の鐘が児童代表の手で鳴らされ、参加者全員が黙とうを捧げて冥福を祈りました。続いて、事件当時6年生の担任であった眞田巧校長が、「本校の話聞いていただき、児童生徒の命を守るための対策について共に考えてくださる学校、自治体が増えていることをありがたく、そして、心強く思っております。事件で亡くなられた8名のみなさん、みなさんが大好きだったこの附属池田小学校は、引き続き、日本中の学校とさらには世界中の学校と手をたずさえ、学校が安全で安心して学べる場所であるようにこれからも努力を続けます。この場所にいる大人は、決して事件を風化させることなく、目の前にある「祈りと誓いの塔」が建てられたその深い思いを受け継いでいけるよう努力を続けていきます」と決意を述べました。



写真部ってこんなところ

今回の表紙に登場してもらったのは写真部の学生たち
活動内容やおすすめポイントを聞いてみました

学校教育教員養成課程 教科教育専攻
保健体育コース 1回生 中村 奎さん

写真部では五月祭や神楽祭などで写真を展示したり、他の部活動の写真を撮影させていただいたりしています。初心者の方も撮影会などを通して写真撮影の腕を磨いています。大阪教育大学写真部のインスタグラムに写真を載せているので是非ご覧ください。

写真部



教育協働学科 理数情報専攻
数理情報コース 3回生 大山 宜秀さん

現在、写真部は週1回の活動をしています。日々の活動では、お互いの写真を講評したり、次はどこに撮りにいきたいかなどのお話をしています。写真展だけ提出する、イベントなどをメインに参加するなど、自分の生活に合わせて活動ができる、自由度の高い部活となっています。

最新のTOPICSは
こちらからご覧ください



01

みらい教育共創館
オープニングセレモニーを挙行



03

春の学園祭
「五月祭」を開催



02

天王寺キャンパスで
「新入生・新編入生歓迎行事」を
開催



04

2024年度
「OKU朝食支援事業(第1回)」を
実施



大阪教育大学基金への
ご協力について

本学では財政基盤を長期的に支えるとともに、大学及び附属学校園などにおける学生等への支援、教育研究支援並びに国際交流や社会連携の推進等を図ることを目的に「大阪教育大学基金」を創設しています。この基金を活用して、教育研究、国際交流、社会連携、教育の高度化、スポーツ・芸術の推進、キャンパス環境整備などの事業を行っています。また本学は、2024年に創基150周年を迎えるにあたり、「大阪教育大学創基150周年記念事業」を展開します。これらの趣旨にご賛同いただき、ご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

一口1000円 クレジットカード等によるインターネットでのお手続きとなります

●基金の詳細は右のQRコードまたは下のURLへ

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/other/foundation/about.html>



●ご協力いただける場合は上記ページの

「大学基金お申込み」ボタンからお手続きください

> 大学基金お申込み

F-REGI 寄付支払い ※所得税等の控除の対象です。

https://kifu.f-regi.com/fc/contribute/osaka_kyoiku

アンケートに答えて
大教大オリジナルグッズをGET!



プレゼント応募締切

2024年11月30日(火)必着

※当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。
※重複でのご応募は無効とさせていただきます。



アンケートは
こちらから

「天遊」とは

「天遊」とは荘子の言葉で、人間の心の中に自然に備わっている余裕を表しています。キャンパス統合移転の記念碑に銘文として刻まれており、揮毫は故水嶋昌(山耀)本学名誉教授によるものです。「天遊」の読みからとった「TenYou」は、「十人十色、その中のあなた」というメッセージを込めています。



今後のよりよい誌面作りのため、皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。アンケート(QRコードを読み取ってご回答ください)にご協力いただいた方の中から、抽選で3名様に**大教大ボールペン&マフラータオルを一色ずつ(色は選べません)**進呈いたします。プレゼントをご希望の方は、フォームにお名前、ご住所、電話番号をご記入ください。